
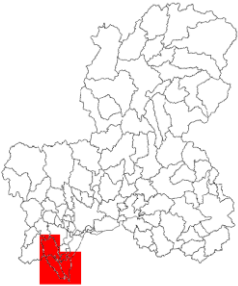


ハイドジョウツナギ	<i>Torreyochloa viridis</i> (Honda) Church	絶滅危惧 I 類
		イネ科
選定理由	湧水地に北方系の遺存植物が生育していることは極めて貴重である。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は水中に沈み長く這って、先は空中に出て斜上、高さ30-50cm。葉身は長さ10-15cm、幅4-6mm。花序は長さ10-20cm、小穂が多くつく。小穂は6-9小花からなり、長さはふつう6-9mm。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は7-9月。養老山地の東側湧水地に本種は生育している。	
分布状況	北海道から本州関東地方に分布するが、岐阜県に遺存分布することが角野康郎らによって報告された。岐阜県では、県南西部にのみ見られる。中国とロシアにも分布する。	
減少要因	本種は低水温の湧水によって守られており、湧水地の減少が種の自生地の減少に直結している。	
保全対策	生息環境の維持。湧水地そのものの保全が不可欠である。	
特記事項	ハリヨの生息地でもある。	
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本 I 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 分類第7巻2号 日本植物分類学会誌 2007年	

文責:福岡義洋